

町田通勤寮だより

NO 60
2016年 11月

社会福祉法人つるかわ学園 町田通勤寮

〒194-0045 東京都町田市南成瀬1-5-3

電話 042 (739) 0491

60号記念理事長巻頭言

社会福祉法人つるかわ学園理事長 廣本 肇

社会福祉法人つるかわ学園が児者転換整備事業をし、児童施設から成人施設へと移行し22年が経ちました。つるかわ学園本部施設を工事している間に、東京都町田通勤寮に手を挙げ、本部施設が開設された翌年、つまり平成7年に東京都町田通勤寮が開設されました。1年遅れとは言え殆ど同時進行です。従って、寮も21年を経過した訳です。都から委託を受けていた形から移譲を受け、独立し東京都をとり「町田通勤寮」となりました。

植村、丸山、岩田寮長等が代を継ぎ、現在の三階寮長は日本知的障害者福祉協会から20年勤続表彰を受けました。また、武智里峰主任支援スタッフも20年勤続表彰を受けました。20年という年月は、それぞれに、それなりの葛藤を踏まえた年月として高く評価されてしかるべきでしょう。

心からなるスタンディングオベーション（成果をたたえる風景）として感謝をこめて拍手を贈ります。より多くのスタッフと共に、今よく言われるチームミッション（絆）が高まっていく場となっていくことを望んでいます。より良い環境として工夫され、それがサービスとして提供されていくため、ひとりひとりが大切な人として、利用者がここを利用して良かったという気持ちで暮らせることが一番です。

今のこの時期は、町田通勤寮としても、型を破っていけるかも知れないタイムフレームだと思います。それぞれの寮が都からの束縛から少しずつ離れ、個性としての独自性を表現していける時代に入りつつあるのかも知れないのです。かつての時代にあった類型的、画一的なパターンから、やがて、セールスポイントのあるものがどこそこにあつた方が通勤寮選びについて面白くなっていくのではないかと思います。町田通勤寮の発展を樂しみにしています。

町田通勤寮への思い

障害者支援施設つるかわ学園施設長 丸山 文弘

私、現在は障害者支援施設つるかわ学園の施設長をやっておりますが、平成19年8月から平成24年4月までの約5年間、町田通勤寮（当時は、東京都町田通勤寮）で寮長をやっております。

通勤寮に異動する前は、昭和54年11月に着任してから25年以上、ずっ

とつるかわ学園で仕事をしていましたので、重度の方たちとの付き合いしか知らないといっても過言ではありません(何回か宿直応援にはいったことがありました)。そんな私がいきなり通勤寮の寮長として着任して、職員や利用者さんたちが受け入れてくれるのかと、不安もありました。ドキドキ感がありました。でも、「郷に入っては郷に従え」で、見よう見まねながら接するうちに、どうにか溶け込むことができたと感じたのは、着任後一〜二か月経ったころでしょうか。

でも、本当を言えば、もしかすると溶け込んだとかそんなことを感じている暇がなかったのかもしれませんが。利用者さんに対する接し方はまるで異なっていました。つるかわ学園ではゆったりと流れていた時間が、通勤寮ではギュツと凝縮されて流れるような感覚でいました。時間の流れが速いこと、速いこと……。通勤寮の利用者さん・職員、企業の方々と話し合うことで、色々なことを学ばせてもらいました。また楽しい体験、辛く大変な体験もさせてもらいました。それもこれも、現在の自分にとつての大きな糧となっていることは言うまでもありません。

私が通勤寮に勤めているときに、「通勤寮」という文言が法律の中から消えました。通勤寮から宿泊型自立訓練事業となり現在に至っています。入寮期間も三年から二年と短縮されました。利用者さんにとっては、今まで以上に人生を急かされる状態かもしれません。職員はその人生に関わることになりました。私も微力ですが、お手伝いしていきたいと考えています。

地域生活援助センター・フクシアより

サービス管理責任者・支援員 青木 正明

通勤寮だよりで記念すべき60号に寄稿する事ができて光栄です。都からの移譲を受け、町田通勤寮の名称から「東京都」が外れましたが、入職した時から東京都町田通勤寮の名称で馴染みのある者としては未だに「町田通勤寮」に慣れていないのが心情です。しかし、名称が変わっても通勤寮の光景は昔と変わっていないと思う今日この頃です。光景は変わらなくても、最近の利用者のニーズや傾向は昔の利用者さんと少し変わってきているようで、職員は新しい寮生(利用者)のニーズや傾向に合わせて柔軟に対応する必要があるのかもしれませんが。福祉の支援に100点満点はありませんが、より良い支援が出来るようフクシアも微力ですがお力添え出来ればと思っております。

代々の寮長とも御縁があり、関わらせて頂きました。有難うございました。今は通勤寮を卒業した利用者を受け入れる援助センター・フクシアに在籍していますが、たまに泊りで業務に入る時には昔の利用者さんや職員の方を思い出しつつ仕事をさせて頂いています。今後の町田通勤寮の発展を職員一同願っております。

全国知的障害福祉関係職員研究大会報告①

町田通勤寮寮長 三階広明

9月7日より9日まで、札幌市で開催された全国知的障害福祉関係施設職員研究大会に参加してまいりました。この大会は毎年行われており今回が第54回となります。今年は全国から約200名の参加者がありました。

まず、永年(20年)勤続表彰に推薦していただき感謝申し上げます。(ちなみに、今年度の受賞者は全国で597名でした。)縁あって通勤寮に入職してから、あつという間に時が過ぎたというのが正直な感想です。事務職ではあっても、施設職員として、利用者の支援に関わる者として仕事をしてきたつもりですが、思い出せば反省材料ばかりが浮かんでくる年月です。

大会は1日目全体会(行政説明、基調報告)、2日目分科会、3日目全体会(特別講演)という内容ですが、ここでは二つの特別講演のうち、旭山動物園長坂東元氏の講演について報告をしたいと思います。

坂東氏は旭山動物園を全国的に有名にした様々な取り組みを行った園長さんですが、正直なところ知的障害福祉関係者の研究大会の講演としてどんな内容の話をするのだろうか、今ひとつ想像ができませんでした。そんな中登壇した坂東氏は作業服姿で、これにもちよつと驚かされました。講演の前段では、自らの原点というべき出来事の紹介があり、獣医として関わった動物の「死」を通して「多様な生命観」を学んだとの話がありました。この中から一番感じたのは「命」と言うことで、いくつかのセンテンスを紹介します。

・人間の発達が動物たちの絶滅をもたらしている。人間も動物であり同

じ道を進んでいるのではないか。人間は他者の命を得て生きている存在なのだから、「共生」という事を忘れてはいけない。

・「命」をつなぐ事とは環境を意識して選択すること。その中では相手の気持ちを優先する、お互いを認める(「全存在を『無条件』で認める)ことが大切であり、その時に「必要な手間」を省いていないかに注意していく事が必要である。

・「生きる」ことは順位をつけることではない。「優劣」とは「ある価値基準」で一面的になされるもので、みんなが同じという事はあり得ない。比較をしない子育て、個性を等身大で認めることが大切なこと。最後に話された、「次世代を守れない社会に未来はない。」との言葉は大変心に響きました。7月に「津久井やまゆり」での出来事があつたこともあり、改めて自分の仕事について考える機会となりました。

全国知的障害福祉関係職員研究大会報告②

主任支援員 武智 里峰

同大会では、知的障害者福祉事業功労者表彰式・行政説明・特別講演と分科会がそれぞれ開催されました。私が参加した分科会についてご報告いたします。

テーマ:「誰もが働き続けたいと思う会社をめざして」

講師:株式会社キューピーあい代表取締役社長・庄司浩氏

内容：…目指すのは、『おいしさ・やさしさ・ユニークさ』を持って世界の食と健康に貢献するグループ。社員が会社に雇われているのではなく、自分が会社を支えているという意識を持つこと、『社員一人一人の自立』をキーワードに、個々の能力を見出し、できることを見つけない。そしてキューピーのシンボルマークには、親会社と子会社、健常者と障害者それぞれ、お互いを助け合い、会社を盛り上げ、地域とも仲良く、愛情を持って共生したいという思いが込められているそうです。支援機関に望む点は、利用者の特性・医療等、会社側が把握していない情報を教えて欲しく、就労支援に携わる者は、企業との信頼関係の構築に努め、ビジネスマナーを習得し、障害者の手本となってほしいという内容のお話がありました。

最後に、障害の有無に関係なく、共に働き・信頼し合うことが、誰もが働き続けたいと思う会社に繋がることの事でした。社員を大切に思う気持ち・障害のある方の気持ちを大切に思いやる会社、そんな会社が増えてくれればと願います。

私達、支援員は職場訪問で職場に何うことがよくあります。利用者さんを会社に預ける側として、利用者さんの状況を共有し、利用者さんが働きやすい環境を作り上げていくことが大事と考えます。勿論、会社側だけでなく、通勤寮（生活の場）としても、会社から安心して帰ってくることで、元気に出勤できる環境を整えることが重要と感じました。

私事になり恐縮ですが、公益財団法人日本知的障害者福祉協会から勤続20年表彰を受けることができました。皆様のおかげで永く働き続けることができています。この場をお借りし、心より御礼申し上げます。

意思決定支援研究II立教大学での実践報告

サービス管理責任者・主任支援員 谷本 洋

9月12日（月）立教大学池袋キャンパスにおいて、学識者・関係者が集い、意思決定支援の研究会が行われました。様々な福祉の現場においてどのように利用者の意思決定支援がなされているか、谷本からは、各事業（入所、通所、就労、地域、自立訓練など）における実践報告をさせていただきますました。一人の利用者が福祉サービスを利用するにあたり、様々なポイントで意思決定がされることとなり、またそれらは制度の改正によってより複雑化されております。それは「障がいの種別」や「障がいの重たさ」で差別されるものではありません。その中でいかに我々支援者が適切に彼らの意思を汲むことが出来るか、またそれを表出ただけるのか、という視点に基づいたプロセスを軸に発表いたしました。福祉制度は、かつての措置費時代から契約の時代と変遷しました。

『契約』とは本人とサービス事業所との契約のことであり、そこで提供されるサービスのあらゆる場面に「本人の意思」が求められます。谷本の報告では最後に以下のようにまとめさせていただきました。

- ① 情報提供…（本人にとって）わかりやすく、多様な選択肢の公開。
- ② 主体性…本人から表出される意思をもとにサービスを提供。
- ③ 環境調整…意思を表出しやすい環境や人間関係。
- ④ 理想と現実…非現実的なニーズではなく、必要なニーズや隠れたニーズ。
- ⑤ 方向性（将来性）…その場しのぎではなく主体的かつ具体的な目標設定。

①～⑤を上手に絡めていきながら、本人の意思を尊重した結論を導く。そうすることで本人の意欲に繋がる。

研究会では現場からだけではなく、法律の分野からの見解も示され、立ち位置が変わると見えてくるものも異なることを踏まえ、一方向からの視点ではなく、多方向からの視点を得ることで、我々現場の意思決定支援がより客観的に、適切に行われることとなり、それが利用者一人一人の人権擁護に繋がることとなる。非常に有意義な時間となったことに感謝し、今後利用者の意思決定支援について深く学びを持って行きたいと思っております。

八景島・湯河原・伊豆高原 宿泊訓練レポート

支援員 新井 政曉

9月25日から1泊2日の行程で、毎年恒例の行事である宿泊訓練が行われました。秋晴れの空の下、1日目は八景島シーパラダイスで自由行動。湯河原大滝ホテルに宿泊し、2日目は伊豆のぐらんぱる公園へ。大まかにはこのような内容でした。

宿泊訓練の目的は、①団体行動を通して規律性・協調性を養う。②仲間関係の構築を図る。③公共でのマナーを学ぶ。という3点となっております。「訓練」と銘打たれていますが、その言葉から受ける印象とは異なり、イメージとしては学校の修学旅行に近い、和気藹々とした旅行です。ただ

道中、気付くことが沢山ありました。普段あまり接点のなかった利用者さん同士が仲良くなる姿が見られたこと。行事が終わってからも、寮生活にまだ慣れていなかった印象の利用者さんに笑顔が増えたこと。他にも多くの、良かったと思える点がありました。楽しく自由な雰囲気「訓練」は、誰かから強制されるという意味のものではなく、利用者さん一人一人の自主性や規範性が集まり成し遂げられた、有意義な「訓練」であったと思います。

支援員 入江 就仁

2日目は曇り空の下でスタート。行き先は伊豆市にある伊豆ぐらんぱる公園です。同園は東京ドーム5個分の広大な敷地内にゴーカート、セグウェイ等の乗り物、無料遊具としてトランポリン、110m見晴しスライダー等が揃っており、幅広い世代が楽しめるエンターテインメント性の高いレジャー施設です。利用者の方もそれぞれ興味のあるアトラクションに向かい、セグウェイに乗って楽しむ人・トランポリンで身体を動かす人など思い思いの時間を過ごしていました。

また、集合・出発時間もきちんと守ることができおり、何より団体行動を通しての目的（規律性を養う・人間関係の構築）も達成できたようです。利用者の方からも「思ったより楽しくて充実できました」「マナーを守るということの大変を実感しました」という声が聞かれ、充実感を得た2日間だったのではないかと感じています。

テーブルマナー@レンブラントホテル東京町田

支援員 浅田 恵理子

そろそろと成瀬駅から会場のある町田駅までスーツ姿の集団が移動するので、道中バツタリ会った卒業生より「もしかして、この時期にスーツなのはテーブルマナー？」とお声がかかりました。

行くまでは緊張感が一切なかったのですが、会場に着くと一気に空気が



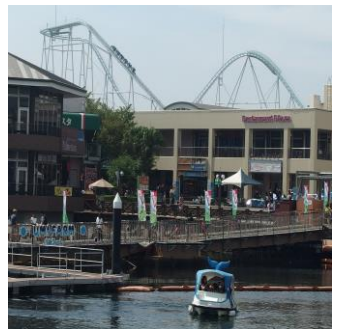
夕食の後はカラオケを



ジェットコースターに挑戦



セグウェイに初挑戦



ボートの横をイルカが泳ぐ!

変わりガチガチの状態になり心配しましたが、講師の方より丁寧に話をしていたであろううちに次第にいつもの明るく、時にはじゃれ合う姿も見られ安心しました。

①豚肉の田舎風バテとサラダ・フランス産マスタード②泡立てたかぼちゃのポタージュスープ③舌平目のムニエル・潰しポテト添えケツパーとレモン風味焦がしバターソース④牛肉の網焼き・秋の野菜と茸ソース⑤柿のスパイス香るロースト蜂蜜のキャラメルソース・ヴァニラアイスクリーム添え⑥焼き立てパン⑦コーヒー。以上が今回のコースメニューでした。

舌平目のムニエルには中骨があり、きれいに頂くのが難しく感じました。皆さんの様子を見ると、フォークのみ使う方、緊張のあまりよく味わえなかった方、初めの緊張はどこへ行ったのかと言うくらい談笑しながら食事を楽しめた方、色んな方がいましたが、講師の方が終始大切だと言われていた『マナーとは一緒に食事をする相手や、周りの人に対する気遣い』という印象的なことば。こちらはしっかりと学ぶことができた楽しいテーブルマナーだったのではないかと思います。



前菜に興味津々な皆さん



乾杯の挨拶を担当しました

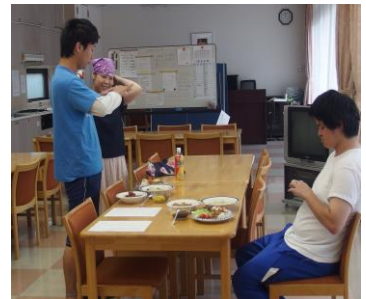
調理実習 ☆秋のとおき献立☆

栄養士・調理員 遠藤 小百合

10月16日(日)に調理実習を行いました。利用者さんからハンバーグを作ってみたいという声を頂いたので今回は「煮込みハンバーグ」を取り分けて「ロコモコ丼」を作り、一つの鍋で簡単に2種類の料理を味わえるようにしてみました。また、秋を意識してハンバーグのソースには旬のキノコをたっぷりと入れ、スイーツにはホクホクのカボチャを使って白玉団子に。見た目でも味でも季節を楽しめる献立となりました。

参加してくれた2名の利用者さんは調理実習の常連さんとも言えるお二人。手早く下ごしらえを済ませたあと、一人はハンバーグもう一人は白玉作りと担当を決めると、ハンバーグ担当はベタつく生地と格闘しながら、白玉担当は予想以上に個数のある白玉を丸めるのに苦戦しながらも楽しんで調理を進めてくれました。

苦労した分ボリューム満点の料理の仕上がり二人とも喜びを感じられたようです。お疲れさまでした。今回の調理実習は12月中旬を予定しております。心も身体もポカポカと温まるような献立を考えております。みなさまのご参加お待ちしております。



試食前のスナップ



優しい味に仕上がりました

スピーチフォーラムinとちぎについて

支援員 植竹 雄太

今年もスピーチフォーラムが近づいてきました。11月12日・13日の日程で、きぬ川スパホテル三日月を会場に行われます。

スピーチフォーラムとは正式名称を「関東地区宿泊型自立訓練事業等利用者集会」と称し、関東地方にある通勤寮の利用者(卒業生を含む)と職員が集まり、日頃考えていること、悩んでいること、これからの目標・希望等について意見を発表しあい、交流するという研修のようなイベントです。今年に通勤寮利用者が7名・GH利用者が2名・引率職員が4名・計13名で参加します。町田通勤寮からは自治会長が就労についての分科会で5分程の発表することになりました。他の通勤寮のメンバーとも交流が持てる楽しいイベントなので、利用者さんにとって、よい思い出となることを願ってやみません。

新年会のご案内

支援員 新井 政暁

来年1月22日(日) 通勤寮恒例行事の「新年会」が開催されます。この会は、成人を迎える利用者さんの祝賀会も兼ねており、二重にめでたいものとなっております。詳細につきましては後日、郵送する書面にてご案内させていただきます。ご多用とは存じますが、ぜひこの機会にお運びくださいますよう、ご案内申し上げます。

今後の予定

- 11月12日(土)南成瀬小防災訓練／スピーチフォーラム(鬼怒川温泉)
- 11月13日(日)スピーチフォーラム
- 11月27日(日)心をつなげる福祉マラソン大会(大島小松川公園)
- 12月4日(日)忘年会(東林バーベキュー)
- 12月7日(水)オンブズマン(利用者相談)
- 1月22日(日)新年会・成人を祝う会(保護者会)

編集後記

町田通勤寮だより60号をお届けします。今号は廣本理事長・丸山施設長という町田通勤寮の創設当初を知る職員にも原稿を依頼しました。20年に渡る先達の労苦があつて、現在の通勤寮があることを改めて思わされます。この「通勤寮だより」も紙面を向上させ、対外的な広報誌にすべく、現在鋭意検討中です。町田通勤寮だよりに対するご意見・ご感想をお待ちしています。向寒の候、くれぐれもご自愛ください。